

「譲原地すべり対策事業」藤岡市制施行60周年記念 現場見学会&防災講演会 ◇実施報告◇

■開催趣旨

藤岡市の譲原地区は、平成3年10月の集中豪雨を契機に地すべり活動が活発化し、地域住民の「一刻も早く安心して暮らしたい。」という願いが国を動かし、平成7年度から直轄地すべり対策事業を進めています。今年4月に藤岡市制施行60年を迎えたことから、これを機会に地元の方々をはじめ多くの皆様に土砂災害について知識を深めていただき、事業の必要性と防災意識の高揚に資するため、現場見学会&防災講演会を開催しました。

■開催日時

平成26年11月15日(土) 13:30~17:15

■参加者数

現場見学会 59名、防災講演会 79名

■主催

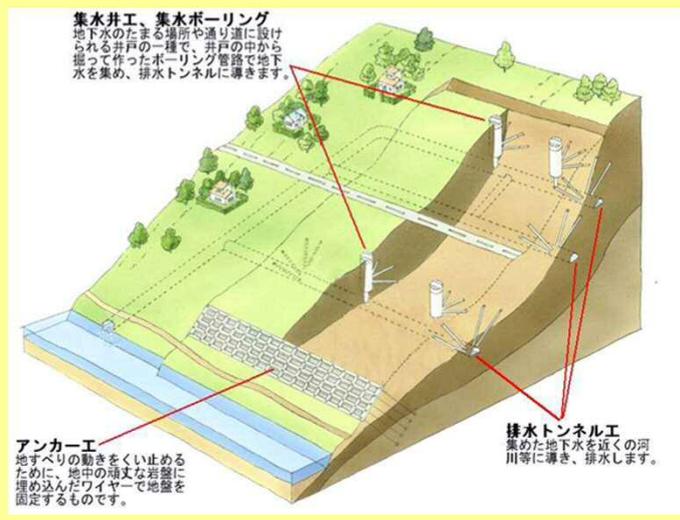
譲原地すべり対策記念事業実行委員会

■共催

利根川水系砂防事務所、藤岡市



地すべり対策



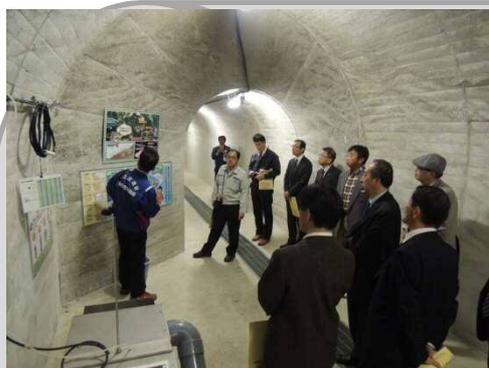
【現場見学会】



譲原防災センター



集水井



排水トンネル



【防災講演会】

会場：藤岡市鬼石多目的ホール

15:30 開会
藤岡市長あいさつ
来賓あいさつ
来賓紹介
15:50 記念講演
15:35 基調講演
16:55 事業報告
17:15 閉会

記念講演

「東日本大震災と斜面災害」 弘前大学 農学生命科学部 教授 檜垣大助

◆かつては地震で地すべりは起こらないと言われていた時代がありました。しかしながら、例えば2004年の新潟県中越沖地震、2008年の岩手宮城内陸地震では多数の地すべり、崩壊が発生し、地震は地すべりには危険だと認識されるようになりました。東日本大震災でも同じことが言えます。

◆震度、地質、地形（傾斜・地上開度・起伏量）、地下水、地震動の動き（揺れの方向）、火山灰などを分析し、どのような場所で斜面災害が起こったのかを調べることを通して、危険箇所を把握する手法の開発が進められています。

◆譲原では地下水に対する対策を進めていますが、地下水を下げることにより、地震による地すべりにも安全性が増していることは確かです。水に対する対策を含めて地すべり対策を進めることは、地震に対する備えとしても大事だと言えます。



基調講演

「最近の土砂災害と地すべり」 国土交通省水管理・国土保全局砂防部保全課長 栗原淳一

◆災害の起きた地域の皆さんに話を聞くと、「まさかこんなことが起こるとは思っていなかった」と、どこの場所でも聞かれます。土砂災害は頻繁に起こるものではありませんが、この10年20年、無かったから安心とはいえません。各地域の教育委員会などが出している書物を見ていただいて、昔、災害が起きていた場所をあらかじめ把握しておくことが大事だと思います。

◆今年1月1日から10月末までに、日本で起きた土砂災害の各県から報告された件数が1043件で、亡くなられた方が82名、人家の一部半壊・損壊が500戸以上になっており、今年は土砂災害が非常に多くなっております。

◆今年の災害の教訓を踏まえて我々も頑張らないといけません、地域の皆様にも是非ご注意をお願いしたいと思います。



事業報告

「譲原地すべり対策これまでの歩み」 利根川水系砂防事務所長 神野忠広

◆譲原地区は、平成3年に地すべり活動が活発化して以降、地すべり調査に入り、平成7年から国直轄による対策事業に着手しました。

◆対策としては、地すべりの移動には地下水が影響しますので、まずその地下水を排除するために、横ボーリング工、集水井工、排水トンネル工を先行して行い、次に、ある程度水位を下げた段階で、土木構造物の力で止める工法、アンカー工や杭工などを行います。平成19年の台風9号接近の際に、譲原地区では過去最大級の雨が降りましたが、集水井など、水を抜く対策の効果があり、大きな被害はありませんでした。

◆今後もこの譲原地区がより安全になるために、鋭意、事業を進めて行く所存です。今後も皆様方のご協力を宜しくお願いいたします。

